

＜ 運営推進会議における評価_様式例 ＞ ※公表用

令和6年3月28日



【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	事業所名	あすならホーム高田 看護小規模多機能
所在地	(〒 635-0062) 奈良県大和高田市磯野南 5-15		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・退院直後の受け入れを行い、在宅でのケアの調整を行う。
- ・通い、訪問（看護・介護）、泊まりを必要に応じて柔軟に行うことにより、利用者様の状態観察や家族のレスパイトに繋がる。
- ・ターミナル期の受け入れを行い、在宅または連泊にて最期までその人らしいケアを行う。
- ・医療面での不安や心配ごとも、看護師が常駐していることで安心を提供できる。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 12 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(17) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 2 月 16 日	出席人数 (合計)	(18) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (10) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 (〇) 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (5) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (〇) 人 <input type="checkbox"/> その他 (〇) 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>① 「地域包括ケア」についての知識が乏しいため、学習会等で理解を深める。 ② サービス内容の細かな理解にかけるため、人に伝えられるように勉強会の開催が必要。 ③ 休憩の見える化を行い、働きやすい職場風土を作る。 ④ 事故の振り返りを行い、安全、安心できる環境を構築する</p>	<p>① サロンでの地域学習会に参加し、事例発表を行った。 ② 重要事項説明書の読み合わせを行い理解に努めた。 ③ ホワイトボードへ各自の休憩時間の記載と共に、お互いに声掛けを行った。 ④ 事故の振り返りをケア会議で行い、月1回の部署会議でも振り返りを行った。</p>	<p>① 全職員が参加できていないので、参加できていない職員への周知を行っている。 ② 職員間での読み合わせを行っている。 ③ 休憩時間の確保はできている。 ④ 一つ一つの事象に対しての事故減少の為の原因の振り返りを行っている。</p>
<p>II. サービス提供等の評価</p> <p>I. 利用者等の特性・変化に対応した専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>① 喀痰吸引や人工呼吸器が必要な利用者を受け入れる体制作りのために、看護師の育成と介護士による喀痰吸引ができるように資格取得を目指す。 ② 座位保持が出来ない方等の入浴方法の構築。 ③ 看護師による学習会を行う。</p>	<p>① 12月末ようやく許可があり、計画準備中。 ② プール浴槽を用いての入浴を行っている。 ③ 事業所内での研修は数回あったが、全員が参加できていない。</p>	<p>① スキルアップにより受け入れ幅が広がる。 ② 座位保持が出来ればシャワーチェアを使う等、柔軟に対応している。 ③ 業務に追われる事が多くなかなか時間の確保が難しいが、ケア会議等を利用して少しの時間でも学習時間を作る。</p>
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>① 看護・介護間でより密にコミュニケーションを図り、連携を行い、一緒にアセスメントを作る。 ② 看護師と一緒にモニタリングを行い、家族に医療的なことについても安心してもらえらる対応を行う。</p>	<p>① 日常のケアの中でお互いに意見を求め、またケア会議等で相談し合うなどの話し合いは出来ていた。 ② CMのモニタリング前に情報提供を行う、また、モニタリングへの同行の機会も作った。</p>	<p>① 今後はアセスメント力の強化を目指し、ケアプランの見直しも話し合えるように指導を行う。 ② モニタリングの同行の際にバイタル測定等を行い、家族の話を傾聴し安心感を得られている。</p>

3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	施設で開催しているサロン、学習会、オレンジカフェに参加し、情報を発信し、地域の方々に知ってもらおう。	サロン活動に全員が参加できるように持ち回りを行った。	サロン活動に参加するだけでなく、地域の方との関りの中で地域貢献につながるものの構築が必要。
Ⅲ. 結果評価(評価項目 42~44)	多職種での連携、情報共有の評価は高い基準にある。看護多機能という性質上、医療を必要とする在宅の方に焦点を置き、柔軟に受け入れられる体制づくりが必要。	今年度は特別管理加算も取得し、体制作りに取り組んだ。	まだまだ医療面の受け入れは十分ではなく。どのような受け入れが可能なのか前向きに考えるような指導が必要。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価(評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人が看多機のサービスを理解したうえで、ケアの提供を行う必要がある。 職員個々に育成計画を立て研修などの学習の機会を持つことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアプランに対して定期的にアセスメントできるよう、アセスメント力の向上を目指す。 年間の育成計画の作成を行い、職員のスキルアップを目指す。 個別学習計画の周知を行い、職員と共有する。
Ⅱ. サービス提供等の評価	<ul style="list-style-type: none"> 泊まりの支援は、家族の負担軽減につながる。利用を促すタイミングが大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療依存度の高い利用者の受け入れを行い、その特性に応じたサービスの提供が出来るよう前向きな取り組みの構築。 喀痰吸引の資格取得を目指す。
2. 多機関・多職種との連携(評価項目 28~31)	<ul style="list-style-type: none"> 多職種での連携が必須であり。情報共有の工夫が必要。 主治医との連絡を密に行う必要性の理解が必要。 有事には、他事業所と連携できるような関係性づくりが重要、 	<ul style="list-style-type: none"> 看護、介護だけでなくケアマネや栄養士なども含めての話し合いの場を作る。 他医療機関や他事業所との日ごろからの交流も含め、有事には連携出来るように努める。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との関係性の構築が必要。 ・喀痰吸引の指定事業所の許可をとることが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関りを深めるためサロンの活動への積極的な参加を行う。また、利用者の困りごとに対して地域や行政への投げ掛けを行う。 ・喀痰吸引の資格取得を行い、医療依存度の高い方にも安心を届ける。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・最期を安心して迎えられる看取りの評価が高いのは良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りの積極的な受け入れを行い、最期まで、その人らしさを大切にすけるケアを行う。 ・アセスメント力の強化を行い、利用者それぞれの目標達成にむけたケアの取り組みを行う。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	1	11	5	0	<p>④泊まりの支援は、家族の負担軽減につながる。利用を促すタイミングも大事である。</p>	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③在宅で過ごす生活を念頭に置いている。 ・理念を実践するべく職員で意見を出しながら頑張っているように思う。 ・①②については対象者が少ない。 ・医療ニーズの高い利用者が少ない。 ・特徴を踏まえた理念は掲げられている。 ・①インスリン注射、点滴、バルーン留置、在宅酸素の対応。②在宅看取りは少ないがホームでの看取り支援を行っている。③退院時に比べるとADL向上している方が多い。 ④ショート利用によりレスパイト支援を行っている。また、サービスを利用することによって、家族が仕事を継続できている。⑤自宅と病院の間の療養先としての役割を果たしている。 ・⑤生活機能の維持改善ができていないように思う。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1	11	5	0		<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	1	6	7	3		<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	3	8	6	0	<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修の案内はある。 ・研修に業務保証がある。 ・よく研修に参加している。 ・学習会や講習会の機会が多い。 ・機会はあがるが、特定の職員に偏っている。 ・全ての職員ではないが研修の機会はある。 ・資格取得の機会もある。 ・法人内外の研修に行っている人はいる。 ・技術の向上に至っていないかは不明。 						
<p>② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保</p>						
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	8	8	1	0	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日ケア会議をすることになっているが、出来ていない日もある。 ・職員全員が理解したケアの統一が出来ていない。 ・朝礼やケア会議など随時、必要であれば共有する機会はある。 ・朝礼やケア会議で共有の機会は得ている。 ・毎日の朝礼、ケア会議、看多会議での情報共有が出来ている。 ・朝礼やケア会議を毎日行うようにしている。 						

番号	評価項目	事業所自己評価					運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない			
<p>③ 組織体制の構築</p> <p>① 運営推進会議で得られた意見等の反映</p>								
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	0	9	6	1	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の内容を知る機会が少ない。 ・主任から指摘があり、対応指示されている。 ・TVの要望はあるが実現できていない。 ・会議で出た内容は伝えられている。 ・会議で得られた情報を聞くだけで終わっている。 	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の観点から、充足度を評価します</p>	
<p>② 職員が安心して働くことのできる就業環境の整備</p>								
7	○ 職員が安心して働くことのできる就業環境の整備に努めている	0	14	3	0	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩を取る際に声掛けや譲り合いができています。 ・職員間で相談ができる。 ・夜勤職員にも気にかけて声かけている。 ・声かけにて無理のないよう気にかけてくれている。 ・「お互い様」の精神で助け合っている。 ・ケアマネの更新研修は自分の休みを当てており、能力向上の支援や労働時間への配慮がないと思う。 	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
		<p>・改善しようという姿勢はあり、柔軟に業務体制の変更や部署内でも話し合いを行い上司に相談している。</p> <p>・それぞれの出来ること、出来ないことにも考慮され、急な欠勤に対しても理解がある。</p>					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	2	12	3	0		<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し送り事項など目で見える形で行っているが、更新が遅れることもある。 ・情報共有の機会も多く、共有もできているが、確実に実施できる工夫が曖昧。 ・ガルーンで情報共有し、随時更新をしているが、漏れもある。 ・ガルーンの情報を毎日の朝礼で伝達することにより迅速に共有、更新できている。 ・迅速とまでは言えないが、都度対応できるように共有できている。 ・利用者の担当職員同士で情報共有を行い、解決策を講じている。 ・随時更新する手段が少なく、就業時間内と決められているため無理がある。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所において具体的な対策が講じられている	1	8	7	1	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</p> <p>対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>	
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TV電話が上手く作動しないことがある。 ・インシデントは都度記入し、ケア会議で話し合っている。 ・ヒヤリハット、事故報告書などは、なるべくその日のうちに話し合っている。 ・ヒヤリハットの報告漏れがある。 ・問題があれば、必ず振り返りを行い、対策を講じている。 ・報告書による情報共有、原因追及、改善策を講じている。 ・交通事故や個人情報保護などについてはアナウンス及び研修でなされている。 ・医療・ケア事故の予防と対策は、もっと研修が必要。 ・夜間訪問時の防犯対策は不明。 ・職員の予防意識が低い。 ・マニュアルを守れていない職員もいる。 							
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるように、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	0	14	3	0	<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマ</p>	
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の連絡手段は確率しているが、関係機関等は不明。 ・利用者の安否確認を具体的にを行う方法はマニュアル化されていない。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 ニューアール化」などが考えられます
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の訓練はしている。 ・訪問時に危険だと思ふことは情報共有している。 ・安否確認システムが導入されている。 					
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
①	利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施						
11	○ 在宅時の利用者の生活状況 や家族等介護者の状況等を 含む、利用者等の 24 時間の 暮らし全体に着目したアセ スメントが行われている	2	12	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護において は、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります 	
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族も含め 24 時間のアセスメントは出来ていない。 ・ある程度は対応できるように実施されている。 ・夜間の様子が分からない事がある。 ・同居や家族の協力を得られない利用者などは 24 時間の暮らし全体というのは難しいが、なるべく困らないように支援を行っている。 ・新規利用時に初期加算にて訪問回数調整を行い、生活の問題点が挙げられている。 ・家族にも、ケアなどの対応が出来るように、声かけや指導を行っている ・TV 電話やオンライン対応、夜勤者との情報共有をおこなっている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種間で共有されている	3	9	4	1	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>	
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	15	1	0	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>	
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	0	13	4	0	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③	利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成						
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	0	17	0	0		<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予測予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
①	継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映						
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	16	0	0		<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者等の状況把握を行い、自立支援にむけたケアの提案をしている。 ・LIFE やモニタリングなどで、早期に計画に反映されている。 ・状況変化あればケア会議で話し合い、計画に反映されている。 ・日々の支援で、利用者の変化を早期に把握できている。 ・CM の対応も迅速であり、職員も対応している。 					

番号	評価項目	事業所自己評価					運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない			
②	居室への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映	2	12	3	0		<p>「訪問による、家族等を含めた居室での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>「訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居室での生活状況を把握するためにも重要です」</p>	
③	利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有	0	14	3	0		<p>「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>	
18	利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	0	14	3	0	<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主治医にはNSから報告を行い、情報共有できている。 ・主治医との情報共有はできているが、目標の達成状況は共有できているか不明。 		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供								
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	4	13	0	0		<p>「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活か</p>	
19	介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	4	13	0	0	<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面はNSが中心となり、生活面はワーカーが中心となり役割分担できている。 ・業務の状況に応じて役割分担が出来ている。 		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 した役割分担や、業務の状況等に 応じた柔軟な役割分担を行うこと が重要です
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あま り でき てい ない	全 く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	4	12	1	0	<p>「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</p>	
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	2	14	1	0	<p>「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価					運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない			
(4)利用者等との情報及び意識の共有								
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供								
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	12	4	0	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の拒否がある利用者への理解が得にくい。 ・サービスの特徴や、出来る事、出来ない事の説明を行い、理解を頂いている。 ・利用者側からの質問にも説明を行っている。 ・利用者が理解できるまで、説明を行っている。 	<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>	
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明								
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	13	4	0	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解が得られないときは、代案などを提示している。 ・利用者家族には理解を得ているが、本人の理解度は、人によって異なる。 	<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>	
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	17	0	0	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インスリン注射の指導や在宅酸素の説明等を行い、理解を得ている。 ・理解して頂いている。 ・血糖測定の手技等、できるまで指導を行っている。 	<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できてい ない		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	3	11	2	0		✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	3	11	3	0		✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	8	5	0		✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きてい ない	全く できて いない		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	2	14	1	0	<p>「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>	
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	2	13	2	0	<p>「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>	
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	0	15	2	0	<p>「即座に対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価					運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きてい ない	全く できて いない			
<p>(2) 多職種との連携体制の構築</p> <p>① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討</p>								
31	<p>○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている</p>	0	6	8	1		<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォームドサポーター等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>	
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</p> <p>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</p>								
<p>① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信</p>								
32	<p>○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができよう方法での情報発信が、迅速に行われている</p>	3	7	5	0		<p>✓ 「誰でも見ることができよう方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよ そ でき てい る	あまり で きて い ない	全 く で きて い ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	3	10	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます 	
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くてきていない」～「よくできていない」～「積極的にできていない」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価し 	
						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「具体的な状況・取組内容」欄に「指定なし」と記入してください ・看護多機能の看護師＝訪問職員の認識を持つよう育成を行う必要がある。 ・『まちの保健室』の役割を担う。 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができ、積極的に受け入れている	0	0	4	13	・スキルアップによって、受け入れ幅が広がる。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができ、体制が整っており、積極的に受け入れている	0	0	0	17	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ体制が出来ていない。 ・夜間の対応が十分に確立されていない。 ・受け入れたい方向性にはある。 ・今後の課題である。 ・今後、介護職の喀痰吸引の資格取得に向けて計画中。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができ、体制が整っており、積極的に受け入れている	3	12	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に受け入れている。 ・家族の意向を踏まえたうえでケアを行っている。 ・最期まで自宅で過ごしたい方のために積極的に受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 の視点から、充足度を評価します
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	0	11	4	1	<input checked="" type="checkbox"/> 「内容等の理解」について、その充足度を評価します <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」	
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	9	7	1	0	<input checked="" type="checkbox"/> 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します <input checked="" type="checkbox"/> 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます <input checked="" type="checkbox"/> 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」	

番号	評価項目	事業所自己評価					運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あま り でき てい ない	全 く でき てい ない			
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	0	9	4	4		<p>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>	
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	0	5	10	2	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・排泄介助、血糖測定、インスリン注射は行えているが、近隣住人の介護力の引き出しは出来ていない。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えてい</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	<p>評価の視点・ 評価にあたっての補足</p> <p>くなどの役割も期待されま す そのような取組をしたことが ない ✓ 場合は、「全くできていない」</p>
		よく でき て い る	おお よ そ で き て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている【2】 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている【12】 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている【2】 4. 利用者の1/3には満たない【1】 <u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・達成に向けて対応している。 ・在宅生活の継続ができています。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている【3】 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている【11】 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている【3】 4. 利用者の1/3には満たない【0】 <u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・家族様に安心感を提供できている。 ・安心感を得て頂けるように、都度の説明を行っている。 ・TV電話の導入により、夜間も連絡が付き、必要時は訪問しており、安心感を得ている。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	<p>○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている【6】 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている【8】 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている【2】 4. 利用者の1/3には満たない【1】 5. 看取りの希望者はいない【0】</p> <p>[具体的な状況・取組内容] ・在宅での看取りの希望は少ないが、施設での看取り希望が多く、安心感は得ている。 ・看取りを希望されている方には、満足頂いている。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>